

## 芸術の秋 『学校美術館構想（仮）始動』 頑張れ！図工部！

少々固い話です。学習指導要領の小学校図画工作科の目標に

表現及び鑑賞の活動を通して、**感性**を働かせながら、**つくりだす喜び**を味わうようにするとともに、**造形的な創造活動の基礎的な能力**を培い、**豊かな情操**を養う。

とあります。学習指導要領の改訂で図工と音楽は時数が削減されてきました。下の表は図工と音楽の年間指導時数を20年前と比較したものです。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
H1改訂	68	70	70	70	70	70	418
H20改訂	68	70	60	60	50	50	358

ただ、本校では、合唱活動に力を入れて学校経営が行われ、そのために教科音楽の時間に加えて、「合唱活動」の時間も確保してきました。合唱の会が今年で44回目を迎えたのもこのような取り組みがあるからです。

一方、図工はどうでしょうか。平成元年と言えば「新学力観」という言葉が取り上げられ、それまでの指導方法の大胆な見直しが図られた時期でした。「生活科」も誕生し、当時は「教師主導」「教え込み」などの指導法が批判され、子どもの思いや願いを大事にした授業づくりへの転換が



迫られた時期でもありました。このような時代背景を経て、附属小の子どもたちは図工とどのように向き合っているのでしょうか。

左は2年生の作品『自分の秋をみつけたよ（八つ切）』です。絵の具の使い方といい、木の葉の重ね方といい秋を感じる素晴らしい作品に出会うことができました。



また、下の写真は4年生の作品『木々を見つめて（四つ切）』です。木の幹の力強い感じや、上に伸びる様子、それを表現する絵の具の重ね方も見事に表現されていて、感心させられました。2つの作品から共通に感じたことは、基本的な技能を子どもが身に付けた上で作品の製作に取り組み表現していることです。

音楽の教科の目標が音楽的な感性を育てるに対して図工は感性を働かせ、となっています。そもそも子どもたちは物心ついたときから造形活動が大好きです。紹介した2つの作品のように自分の思ったことや感じたことを表現できればきっと楽しいですね。でも、なかには「うまくかけない」「もっと上手に書きたい」と思っている子もいるはずですが。この子たちの「思い」をどう叶えてあげるのかを図工部では研究として頑張っ

ています（あくまでも個人的な思いです）。  
それにしても子どもたちの絵や作品がある学校はいいですね。そんな環境に大学の力ももっと借りられないか、というのが図工部と相談している『学校美術館構想（仮）』です。

図工部、何かやりますよ！乞うご期待！！

（文責：副校長 手代木）